

世界旅打ち気分

●第80回・バルナリンとヒールズビル

須田鷹雄



写真1) バルナリンのレース風景



写真2) ヒールズビルでパドックを見る人々



写真3) オールドスタイルのブックメーカーはこんな感じ

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

今回はオーストラリア・ビクトリア州のピクニック競馬からうつの競馬場をご紹介します。

ピクニック競馬については過去に紹介した競馬場もあるが、あらためてオーストラリアのカテゴリ分けについて説明したい。

オーストラリアの競馬がレベルの高いほうからメトロ・プロヴィンシャル・カントリーという区分になっていることは皆さんご存知だろう。実はそれとは別にピクニックというカテゴリがある。このピクニック競馬はアマチュア騎手しか騎乗できない競馬で、元プロで一定以上の成績を収めた者は引退後もアマチュア騎手資格は取れない。馬のほうは通常の競馬とピクニックの両方に使うことができるが、賞金が安いのでピクニックは常連や、カントリーでも成績が奮わない馬たちが出てくる。

そしてこのピクニック競馬は、基本的にノンTAB開催である。TABというのは馬券を売る会社で、唯一市中店舗で馬券を売る権利を持つている場内とネットはいわゆるブックメーカーも営業できる。基本的に普通の競馬は、このTABによって豪州全土、少なくとも

もその州ではどこでも馬券を買うことができる。

しかしピクニック競馬は、場外発売がない。TABが場内だけの窓口を出すことはあるが、市中店舗やネットでは売らない。それ以外のブックメーカーも扱わない。つまり、ピクニック競馬は場内でしか馬券が買えないのである(場内にブックメーカーはいない)。場外馬券がないので、SKYというレーシングチャンネルや、ネットでも中継は無い。場内だけで完結する世界なのだ。

馬のレベルは低く中継も無いような競馬、盛り上がりがないだろうと思われそうだが、これがけつこう盛り上がる。地元でしょっちゅう開催があるわけではないので、文字通りピクニック的な感じで楽しむファンが多いのだ。

今回まずご紹介するのは、ビクトリア州バルナリンの競馬場。メルボルンの中心部から南に1時間半ほど行ったところにある。メルボルンはポートフィリップ湾という湾の北側にあるが、湾の東側を南下していった先にある。

近くにはモーンントン競馬場という、実質プロヴィンシャル(ピク

力というか、地元に根差した競馬を感じる)ができる。ちなみに2025年は火曜にメルボルンカップが行われた週の土曜にバルナリンの開催があった。

今回ご紹介するもうひとつのピクニック競馬場、ヒールズビルはメルボルンから東北東へ車で1時間半ほどのところにある。この街から東側はヤラ・レンジズ国立公園というところに通じる山々となり、良く言えば自然豊か。ただ豊かすぎて往復運転する途中で車にはねられた野生動物の死骸を見ることも多い。カンガルーの場合、自分がつかる側になると車もそこそこやられるので注意が必要だ。日高における鹿のようなものとも言えよう。

このヒールズビルは比較的開催日数のあるピクニック場だと思っただが、現場に「なにもない」ということでは本格的になにもない。建造物の名にふさわしいのは審判塔くらいのもので、あとはバー(レースブックはここで売っている)とジョッキールーム、事務所がプレハブくらしいレベルで存在するだけである。

筆者が訪問した2020年には

トリア州はプロヴィンシャルというカテゴリを採用していないのでカントリーとなるが、実質的には主要場の競馬場があり、そこからの距離は車で20分ほど。さすがに開催が重複することはない。というか、バルナリンは2〜3カ月に1回の開催ペースである。日本の感覚だと少なく思われるだろうが、オーストラリアでは年に1回しか開催のない競馬場もあるので、ピクニック競馬にしては開催があるほうだ。ビクトリアにも年1、2回しか開催がない競馬場はあるが、このあとご紹介するヒールズビルや以前本欄で扱ったウーラマイなど、定期的に開催があるピクニック場が多い。

バルナリンの開催でも、1月末に行われるカップデイは特に盛り上がる。バンド演奏があるほか、ファッションオンザフィールドと呼ばれるベストドレッシング賞も行われる。

メルボルンカップ当日のファッションオンザフィールドはプロのモデル級やとつもない豪華衣装でないと入賞できないが、この手の小さな開催で行われるものは、ちょっとしたおしゃれで入賞できる。女性部門はそれなりに参加者がある

TABが場内のみで馬券発売をしていたが、ほとんどの客が一般のブックメーカーで買ってしまうので、TABの売り上げは0に近い様子だった。2025年現在ではピクニックどころかカントリー開催でも「儲からないからTABは窓口も機械も出しません」というケースが出ているので、もうヒールズビルにTAB窓口は無いものと思う。

ブックメーカーのほうもピクニックとなるとオールドスタイルのものが出てくる。もちろんデジタルサイネージでオッズを示したり同日のメトロ場も売るブックメーカーもいるのだが、馬名は紙に手書き、オッズは幕になっているものをクルクル手で回すといった業者もいる。応援の意味でオールドスタイルのブックメーカーを利用したいのだが、残念ながらそういうところはオッズが良くないことも多く、買えるタイミニングが少ない。

パドックマウンティングヤード」もレースも簡単なものだが、「馬を走らせて競う」ということだよねと改めて感じる。貴重な機会でもある。